

楽天フリマ	このような機能は現在ないが、検討中
BIDDERS	ご出品者各々が、過去に取引拒否にあった場合などに利用
ISIZE じゃまーる	ブラックリストという物自体は存在しないが、独自の審査システムにより、過去の履歴が把握できるようになっている。
月刊 QUANTO	全ての情報に関して、掲載前にブラックリストとの照合を行う。ブラックリストは、名前、住所、電話番号などで検索する。
月刊わあでい	基本的に、2-3名の利用者から苦情が寄せられた人物に関しては、掲載者データベースの中でブラックリスト登録し、以後、掲載が出来ないように対処している。人数はあくまでも目安であり、被害状況に応じて編集部で検討。
東京新聞	なし
ばど	なし。トラブルが発生した際、その都度「ミストラブル報告書」を作成し、報告するとともに責任者の判断を仰いでおり、その報告書の回数をチェックし、何度も問題が生じた場合は以後一切掲載はしない等の対応をしております。

#### 16.取引保証制度の導入状況

サービス名称	
Yahoo!Japan オークション	保険 エスクロー 鑑定サービスについては検討中。
e-bayJapan	保険 エスクロー 鑑定サービス（イーベイアメリカサイト）で導入
楽天フリマ	補償制度（上限：10万円） エスクローサービス（6社） 車認定サービス 今後も、安心・安全に出品・入札ができるようなサイトにするために各種取引補償制度の検討は進めてく考え。
BIDDERS	→10万円までの保険制度あり →エスクロー3社と提携（常時エスクロー選択出品件数5000以上） →鑑定サービスなし
ISIZE じゃまーる	なし
月刊 QUANTO	なし
月刊わあでい	なし
東京新聞	なし
ばど	なし

#### 17.出品者へ事前に質問する方法は用意されているか

サービス名称	
Yahoo!Japan オークション	Q&Aの機能を利用することができる。
e-bayJapan	されている
楽天フリマ	商品ページの「出品者に質問する」から質問することができます
BIDDERS	用意されている。（ただし、メールアドレスは分からず）
ISIZE じゃまーる	メールアドレスが公開されている

この調査の結果明らかになったことは次の通りである

- (1) 主催者側の掲載審査を受けずに直接利用者の意思表示が画面に反映されるインターネットオークションは、編集部による掲載審査が行われている雑誌媒体に比して詐欺や違法出品の実情を把握していない印象を受ける。このことは次章のユーザアンケートの結果からも伺える。
- (2) 利用に際して厳格な本人確認を行っているところは、トラブルの発生件数も低く、かつ相対的に主催者自らが積極的に不適格者排除の努力を行っている。
- (2) 手数料の有無や金額の大小と、トラブル防止策の実施内容には必ずしも相関関係がない。
- (3) 盗品の流入は雑誌媒体では皆無だが、オークションサイトでは存在する

最近までは「ばど」「じゃまーる」「わあでい」との4社で協議会を開催し、安全対策の在り方やブラックリストの共有化などを検討していたが、「じゃまーる」がネット（ISIZEの個人売買掲示板「じゃまーる・オン・ザ・ネット」）に移行して以来は自然消滅。「じゃまーる・オン・ザ・ネット」は雑誌媒体で培ってきたノウハウをネットにも生かし、その「掲載アイテムチェックシステム」はDeNA主催のBidders等にもオークション用として改訂し導入されている。

クアントでは過去に1年ほどインターネット版として「デジクアント」と言うサイトを運営した。この場合、クレジットカードによる与信を必要とする会員制とし、更に、会員証を自宅住所宛に郵送して「会社や私書箱を使用していないか？」を目視にて確認する方法を採用したためトラブルは1件も発生しなかった。しかし、その後、無料サイトが出現するにつれ利用者が減り閉鎖を余儀なくされている。今日、ネットオークションが軒並み有料化に踏み切ることになれば、ふたたび「デジクアント」の復活も考えれるが、いかに価格競争力を保ちながら現行の安全性を維持できるかがポイントとなるであろう。すでにBiddersでは会員カードの郵送による住所確認を実施していることから考えても、今後はこの方法が主流になるべきではないかと思われる。

しかしながら現実には必ずしもそうした安全性の高いサービスが消費者に支持されているとは言えず、利用登録の簡便さや、サービス提供者の知名度等が集客に大きく影響しているのが実状である。そしてそうした大規模なサイトになるほどトラブル防止への対策やトラブル発生後の対応姿勢が低下する傾向が見られる。